

## 国際化の中での日本語教育 ⑤

## コロナだけにコロコロ変わる

2021年1月14日、「菅義偉首相は13日、コロナ禍にあって就任以来推進してきた入国緩和政策を全面停止することを打ち出した」というニュースが流れた。コロナ禍において海外との人の往来が減少している中でも、日本政府はこれまで、「研修生」や「実習生」という名目で、外国人労働者を多く受け入れてきた。今の日本の状況を考えると技能実習生がいなければ成り立たない産業もあると聞く。また多くの留学生もアルバイト生として働いている。しかし、国内のコロナ感染者急増もあり、入国緩和措置を2020年12月28日に原則として停止したばかりだった。感染拡大を防ぐには水際対策としてそうせざるを得ない状況なのはわかるが、研修名目といいながら実質は労働力として、外国人を受け入れているということを世に知らしめたようにも感じる。このことは、政府が迷走していると他人事のように思うのではなく、国民の皆が真剣に考えていかなければならない問題ではないだろうか。未曾有の事態に誰もがどう対処すればいいのかわからないことだらけだが、この新型コロナというのは見えにくかった社会の問題を浮き彫りにし、皆でより良き方向へ導くために与えられた試練でもあり、チャンスでもある。

## 日本社会はすでに外国人労働者で成り立っているのか

厚生労働省の『「外国人雇用状況」の届出状況まとめ(令和元年10月末現在)』によれば外国人労働者数は1,658,804人で、前年同期比で198,341人(13.6%)増加し、過去最高を更新している。その要因としては政府が推進している高度外国人材や留学生の受け入れが進んでいること、雇用情勢の改善が着実に進み、「永住者」や「日本人の配偶者」等の身分に基づく在留資格の人々の就労が進んでいること、技能実習制度の活用により技能実習生の受け入れが進んでいること等が背景にある。国籍別では、中国418,327人(全体の25.2%)ベトナム401,326人(同24.2%)フィリピン179,685人(同10.8%)が上位3位で、増加率が高いのが技能実習生である。産業別の割合でも「製造業」が20.4%、「卸売業、小売業」が17.4%、「宿泊業、飲食サービス業」が14.2%、「建設業」10.7%というようになっている。やはり日本社会の中ですでに多くの外国人が働いていて、日本社会を構成する一員となっていると言っても過言ではない。

## ある建設会社社長の話

Yahooニュースで、ドキュメンタリー「ベトナム人技能実習生を「幸せにする」一建設会社社長が掲げる「帰国後」の目標」(<https://creators.yahoo.co.jp/kishidahirokazu/0200089407>)を見た。10分くらいのビデオだが、これが技能実習の本来のあるべき姿なのかとも思った。話を要約すると、2016年に北海道千歳市にある建設会社の社長、山口健氏が、ベトナム人技能実習生の面接のためベトナム・ハノイ市の日本語学校を訪れた。建設業界全体で人手が不足し、求人を出してもなかなか集まらなくなっていた。山口社長は面接を振り返って、次のように述べている。「その時の僕は、立場が上になったような気持ちでいました。ところが、なんで日本に来たいのかと聞いたら、『自分の国だけど、ここにいても何も夢がない。お金がない。チャ

ンスをつかみたい』って。こんな軽い気持ちで面接をやっちゃダメだ、と罪悪感を持った。会社の苦境を助けてもらおう、でも来てもらうんだったら、そのぶん返さなきゃいけない。『絶対幸せにしてやるから心配すんな』と誓った。」

その後、実習生たちと信頼関係を築き、実習生もその建設会社で大きな戦力として活躍した。彼らは日本へ来るのに渡航費や手続きで50万円くらい借金を背負ってやってくる。山口社長は実習生の給与や待遇の改善ができないかと考え、外国人技能実習生の受入組織である監理団体の理事長に就任し、賃金や条件の見直しも行った。ビデオの中で山口社長が子供の頃に苦労した経験を振り返る場面があるが、そういった経験もあってベトナムの技能実習生たちの気持ちを汲み取ることもでき、いい関係を築こうと努力したのだと、筆者は思った。

## 安い労働力と考えるのではなく

日本の経済界は、外国人労働力の導入に積極的だが、その一方で、外国人労働力を多く受け入れ、日本が移民の多い国になることを懸念する人々もいる。しかし、少子高齢化に歯止めがかからず、自動車産業、製造業、あるいは伝統的地場産業など、労働力不足で、外国人労働者を受け入れなければならない現実がある。彼らを単なる安く使える「労働力」として考えるのではなく、日本の社会を構成する一員として尊重する社会を作っていけるか、すべての日本国民に問われているのではないだろうか。先に挙げた北海道の建設会社社長のドキュメンタリービデオを見れば技能実習生を単に労働力を補うだけの存在として扱うのではなく、人間的なつながりをもって共に努力していこうという姿勢が強く感じられる。技能実習生の失踪や事件なども時々ニュースに出ているが、受け入れている側にも問題があるケースもけっこう多いのではないかとも思える。

## 同じ人間である

筆者は「世界中、一列皆兄弟姉妹や、他人というはさらにないぞや」(おふでさき13号43 漢字は筆者)と教えられてきた。この天理教の原典である『おふでさき』の13号には人間社会のあり方について説いた歌が多い。筆者なりのこの一連の歌の解釈を書くことにする。人間というものは神の子であり、世界中皆が兄弟姉妹である。しかし人間はそのことを知らずに暮らして神は残念に思っている。人間が人間であるかぎり誰もが皆、同じ魂であり、その魂が神から体を借りて現世に生まれ、暮らしている。そのことを知らずに、人間には高低があるように思っているが、それは誤った考えである。そして、この真実を世界中へ知らせ承知させたい。そうすれば人々が争い、傷つけあうこともなく平和に暮らしていけるということである。これは真理であり、実践すれば陽気な素晴らしい暮らしができると保証しているようにも感じる。先のドキュメンタリービデオを見た時に真っ先に感じたのが、この教えである。先進国と言われる国から来る人も外国人である。開発途上にある国から来る人も外国人である。先に述べたように高低があるわけではない。分け隔てなく皆が同じ神の子で兄弟姉妹であるという思いで、皆が外国人問題を考えていかなければならないのではないだろうか。